



Title	学校教育にピア・サポートが果たす役割：つながりをつむぐ場をつくりだす
Author(s)	岡本, 健
Citation	S.E.N.S(特別支援教育士)の会北海道支部 第2回継続研究会（札幌地区）. 2011年5月28日. 札幌コンベンションセンター. 札幌市
Issue Date	2011-05-28
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/45500
Type	conference presentation
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	slide.pdf (発表用スライド)



[Instructions for use](#)

学校教育にピア・サポートが果たす役割

つながりをつむぐ場をつくる

特別支援教育士資格認定協会S.E.N.Sの会北海道支部会
「第2回継続研究会(札幌地区)」
於:札幌コンベンションセンター

東京成徳大学 人文学部観光文化学科 非常勤講師
大阪観光大学 観光学研究所 客員研究員
北海道大学ピア・サポート学生代表
北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院

観光創造専攻博士後期課程
岡本健

okamotot@cats.hokudai.ac.jp

本日の内容

① 自己紹介

古都奈良から北海道へ、認知心理学に没頭、そして観光研究へ

② アニメ聖地巡礼

観光研究の道、そして、コンテンツツーリズム研究

③ 北海道大学ピア・サポート

ひよんなことからピア・サポート学生代表に

④ 本日のまとめ

つながりをつむぐ場をつくる(デザインする)方法

「見バラバラなこと」
実は本日のテーマと深く関わる

① 自己紹介 ～経歴～

☆1983年に大阪府で生まれる。

☆育ちは奈良県奈良市。奈良市立二名中学校を卒業し、奈良県立奈良高等学校に入学

周りが優秀で、成績が悪化し、いじける

☆2002年4月 北海道大学文学部に

代々木ゼミナールに入学

→文学部では認知心理学を専攻

→音楽心理学を専門に。母親は音楽療法を研究。

☆2006年4月 北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院

観光創造専攻 修士課程に入学

→観光創造専攻が新設された際に修士の一期生として入学。

★大学院に入った当初は、

「新しい修学旅行モデルの提案と有用性の検討」をテーマとして入学。

① 自己紹介 ～経歴～

★2008年4月に、埼玉県鷲宮町の事例を知り、衝撃を受け、テーマを変更。

★2009年1月修論を提出。

「情報化社会における自律的観光のあり方に関する研究

－アニメ聖地巡礼者の旅行行動の特質とその課題－

岡本健(2009)「情報化社会における自律的観光のあり方に関する研究 －アニメ聖地巡礼者の旅行行動の特質とその課題－」『2008年度修士論文』 【ダウンロードURL】 <http://hdl.handle.net/2115/38233>

課外活動

★JTB & ベネッセの企画「まな旅サポート修学旅行」で、北大セクションの受け入れを担当

Takeshi OKAMOTO(2008)「The role of student volunteers in tourism and building up a sustainable operating system-the “Providing Information and Knowledge Model” and the “Common Pleasure Model”」『Sustainable Tourism Ⅲ』WIT PRESS, pp.121-129 【ダウンロードURL】<http://hdl.handle.net/2115/35573>

★小学生に考える力を身に付けてもらうための活動を展開

「北海道大学教育支援ボランティアサークル「どんぐり」」をつくる

→現在も継続中

★学習塾のコンサルティング

① 自己紹介 ～経歴～

★2009年4月より、博士課程に入学。博士課程入学時のテーマは

「旅行者と地元住民の心理的相互作用に関する研究

～国内アニメ聖地巡礼の比較・検討から～」

★**観光社会学**をメインに、**情報空間と現実空間が併存する現在の**

旅行者と他者とのコミュニケーションについて研究中

〔♪地域映画「鷺宮☆物語 ～商工会の挑戦～」

(AKB48の増田有華さん、D2の上鶴徹さん出演)では、脚本・出演を担当〕

→現在3年次。博士論文を書いているところです。

テーマは「**情報社会における旅行者の特徴に関する観光社会学的研究**

～コンテンツを動機とした旅行行動の分析から～」

☆2009年4月～2010年3月

北海道大学 観光学高等研究センターリサーチアシスタント

☆2009年5月～ 北海道大学ピア・サポート学生代表

☆2009年9月～ 大阪観光大学 観光学研究所 客員研究員

☆2011年10月(予定)～ 東京成徳大学 人文学部観光文化学科 非常勤講師

② アニメ聖地巡礼 観光研究の道、そして、コンテンツツーリズム研究



背景

近年、コンテンツを活用した地域振興や、コンテンツを動機とした旅行行動が盛んに実践され、研究されてきている。

以前から、観光はメディアに大きく影響を受けると言われてきた。メディアが知覚を構成する。

近年の事例では、社会の情報化(情報通信技術利用の普及)とも相まって、これまでのメディアと観光の関係が大きく変わって来ている。

→一方向的ではない

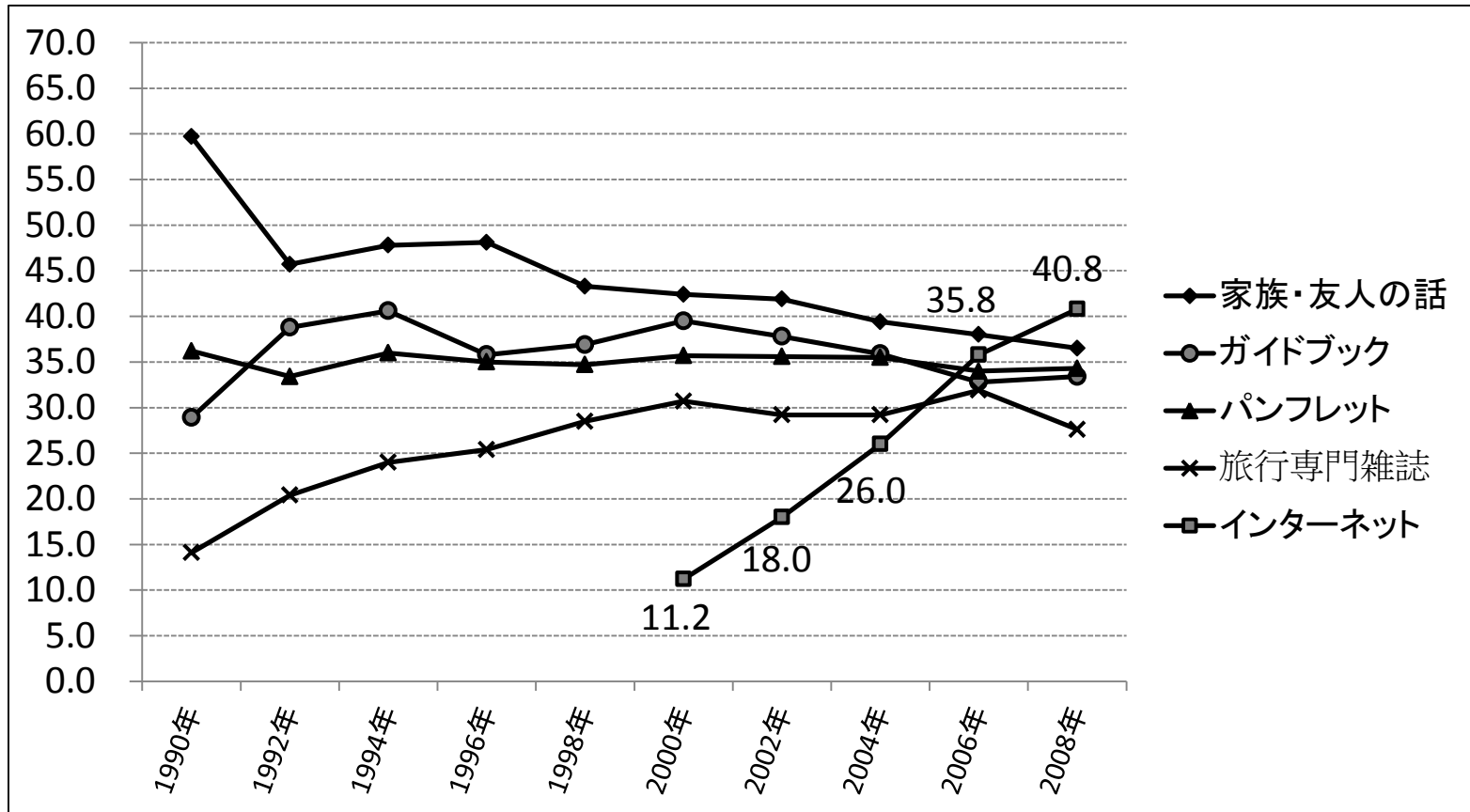
→メディアも観光も複雑な社会関係の中におかれている

これまで受容者側(オーディエンス)として扱われていたのが、発信力を持ったことで、特権的なメディア事業者のみならず、個人や小集団が情報発信を行えるようになった。

旅行者が利用する情報源

各種旅行情報の利用率の推移

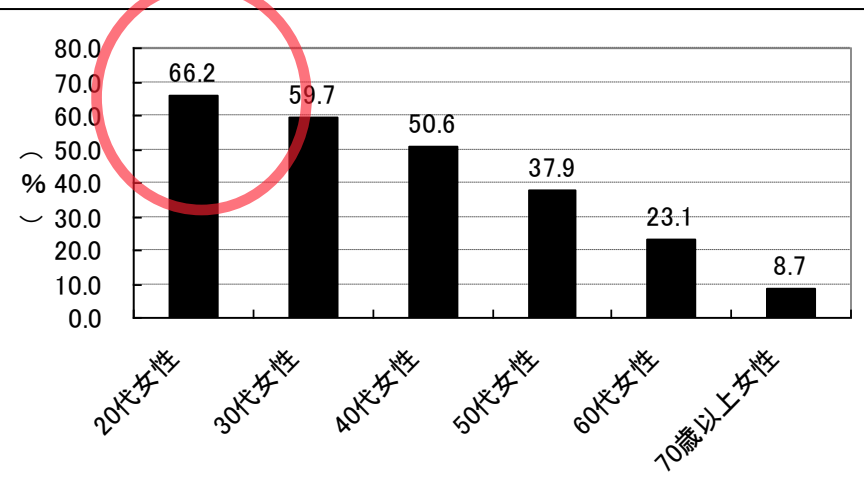
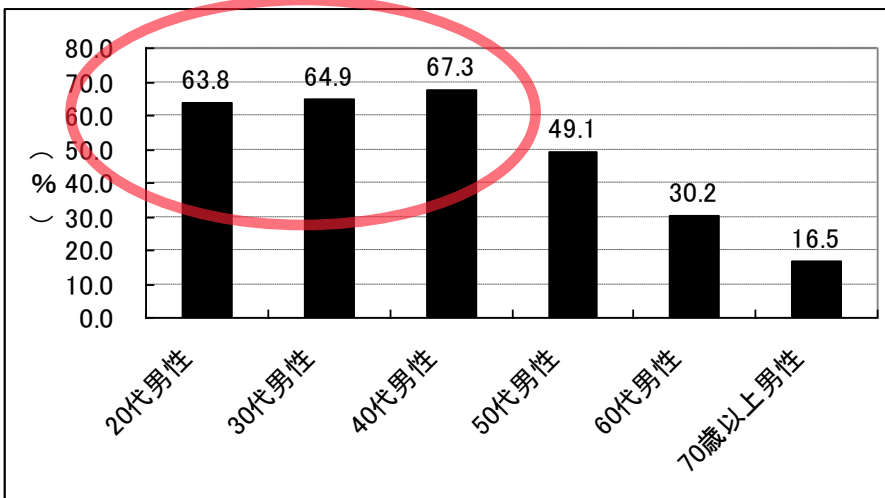
データは、平成21年度版
「観光の実態と志向」p.81より



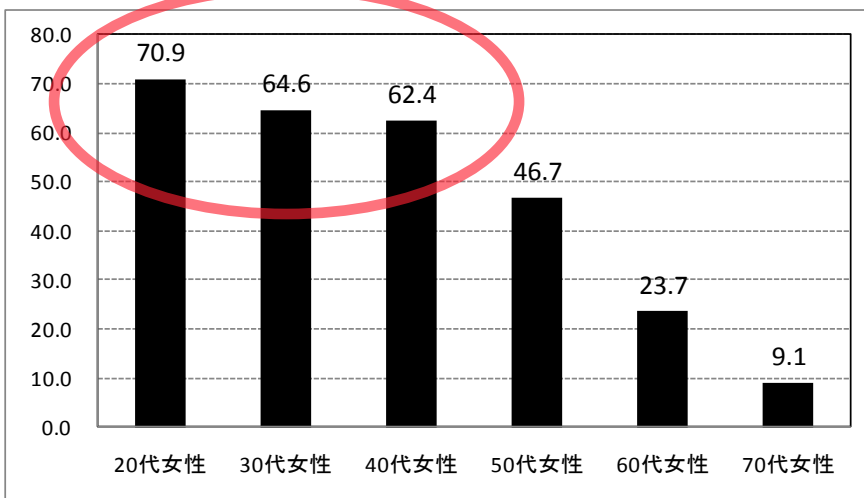
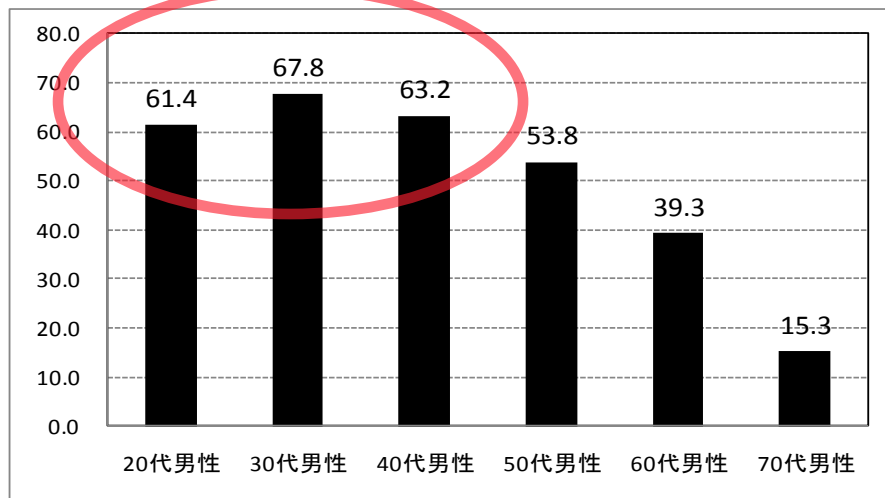
図の引用元

岡本健(2011),「新たなつながりを創出する情報社会の旅行コミュニケーション—コミュニティオブインタレストと地域コミュニティの出会い」,
山北輝裕・谷村要・稲津秀樹・吹上裕樹編『KG/GP社会学批評 別冊:共同研究成果論集』, pp.77-95
<http://hdl.handle.net/2115/44957>

ネットの検索サイト利用率の変化



2007年時点で「ネットの検索サイト」を情報源として利用している割合（左：男性 右：女性）
財団法人日本交通公社「旅行者動向2008 国内・海外旅行者の意識と調査」pp. 100-101を元に筆者作成



2008年時点で「ネットの検索サイト」を情報源として利用している割合（左：男性 右：女性）
財団法人日本交通公社「旅行者動向2009 国内・海外旅行者の意識と調査」pp. 100-101を元に筆者作成

目的

このようなメディアと観光の変化で、実際の旅行行動や旅行中のコミュニケーションはどのようになっているだろうか？

ここでは、アニメファンの旅行行動である
「アニメ聖地巡礼」に注目する。

熱心なアニメファンは「オタク」と呼ばれ、その消費行動やコミュニケーションのあり方は、現代日本における特徴を反映していると言われて
いる(東 2001)。

そうすると、アニメファンの旅行行動を調べれば、
情報社会である現代の旅行行動の特徴が見えてくると考えられる。

アニメ聖地巡礼とは？

アニメに描かれた場所を聖地とみなし、そこを訪れる行動

書籍や新聞・雑誌記事を分析

→1990年代に誕生

→10代から40代の男性中心

→情報をホームページで発信

岡本健(2009)「アニメ聖地巡礼の誕生と展開」
『CATS叢書 メディアコンテンツとツーリズム』1, pp.31-62.
<http://hdl.handle.net/2115/38112>

アニメ聖地はどこにあるか？

凡例

「場所の名前」

『作品名』

「滋賀県豊郷町」

『けいおん！』

「宮城県仙台市・七ヶ浜町」

『かなぎ』

「広島県三次市」

『朝霧の巫女』

「埼玉県鷲宮町」

『らき☆すた』

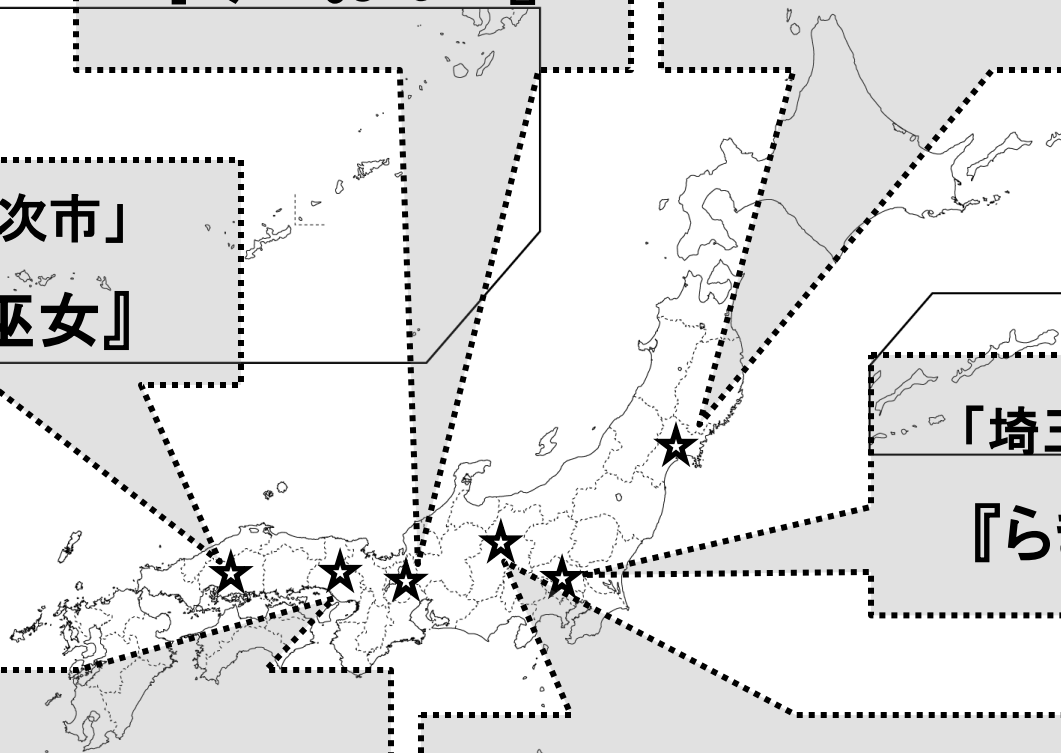
「兵庫県西宮市」

『涼宮ハルヒの憂鬱』

「長野県大町市」

『おねがい☆ティーチャー』

『おねがい☆ツインズ』



アニメ聖地巡礼者の分類

① 開拓的アニメ聖地巡礼者

アニメを視聴し、様々な情報を収集し、地域を特定して訪れる聖地巡礼者。

② 追随型アニメ聖地巡礼者

アニメを視聴し、開拓的アニメ聖地巡礼者が発信した情報を用いて聖地を訪れる巡礼者

③ 二次的アニメ聖地巡礼者

テレビのニュースやネットのニュースで聖地巡礼を知り、訪れる巡礼者、アニメは後から、という場合もある。

アニメ聖地巡礼の動機形成

アニメの視聴

+

背景が実際に存在
するという情報

外部情報

ネット上の情報
雑誌・新聞
DVD特典など

内部情報

記憶

聖地巡礼はどういうことをするんだらう？

①アニメ聖地の写真を撮影する

アニメに登場するアングルと同アングルで写真を撮影する。動画を撮影することもある。

☆撮影のバリエーション

- ・風景のみ
- ・自分が入る
- ・フィギュアをフレームに入れる

聖地巡礼はどういうことをするんだらう？

②旅の記念物を置いていく

- 1 絵馬掛け所に痛絵馬を残していく
(鷲宮町、仙台護国神社、尾道、上田城、白川郷などで確認)
- 2 黒板にアニメ絵を描く(鷲宮町、豊郷町で確認)
- 3 聖地巡礼ノートにコメントやイラストを残す
- 4 グッズを置いていく(鷲宮町、大町市で確認)
 - 1. 市販されているグッズ
 - 2. 他の聖地のグッズ
 - 3. 自作のグッズ
- 5 地域の商店に宣伝用のイラストを置いていく
(鷲宮町で確認)



埼玉県北葛飾郡鷺宮町（現・久喜市）

鷺宮神社と大酒茶屋

聖地巡礼
レポート

いから書きなさいよ!!



大酉茶屋 わしのみや

痛絵馬



鷺宮町・鷺宮神社絵馬掛所



鷺宮町・寿司店カウンター

持ち寄られたグッズ

持ち寄られたグッズ



鷺宮町・寿司店店内



鷺宮町の和菓子店店内

持ち寄られたグッズ

黑板アート



鷺宮町・大西茶屋

聖地巡礼はどういうことをするんだらう？

③実況中継

ノートPCや携帯電話などの持ち運び可能なインターネット端末を用いて、掲示板やブログ、動画投稿サイトなどで
聖地の様子を写真や動画で「実況中継」する。

ブログや、2ちゃんねる、mixiのコミュニティ、
などに発信される。

聖地巡礼はということをするんだらう？

④痛車

アニメやゲームなどの絵を貼りつけた自動車で聖地を訪れる。

痛車



埼玉県幸手市・痛車



痛車



埼玉県鷲宮町・痛車

埼玉県鷲宮町・痛チャリ



聖地巡礼はどういうことをするんだらう？

⑤コスプレ

コスプレは、

「アニメやゲームのキャラクターに扮すること」

コスプレで聖地を訪れる。

聖地巡礼はどういうことをするんだらう？

⑥交流

ステレオタイプな、いわゆるオタク像では、
「コミュニケーションが苦手」、と言われるが・・・

町民(特に商店主)との交流が盛んである。

マナーの良さも指摘されている。

地元文化との融合

鷺宮町・土師祭



鷺宮町・らき☆すた神輿



土師祭については、こちらに詳しく書きました。

岡本健(2011),「新たなつながりを創出する情報社会の旅行コミュニケーション—コミュニティオブインタレストと地域コミュニティの出会い」,
山北輝裕・谷村要・稲津秀樹・吹上裕樹編『KG/GP社会学批評 別冊: 共同研究成果論集』, pp.77-95
<http://hdl.handle.net/2115/44957>



埼玉県北葛飾郡鷺宮町
(現久喜市)の土師祭

聖地巡礼から帰ってすることは？

インターネット上での発信

- ・「巡礼記」

写真付きで聖地巡礼の様子を紹介するもの。

- ・アーカイブ化

上の「巡礼記」をアーカイブ化。

代表的なサイト「舞台探訪アーカイブ」では、

2009年9月12日現在403作品が登録されている。

- ・mixiのコミュニティ、2ちゃんねるへの書き込み

聖地巡礼から帰ってすることは？

同人誌での発信

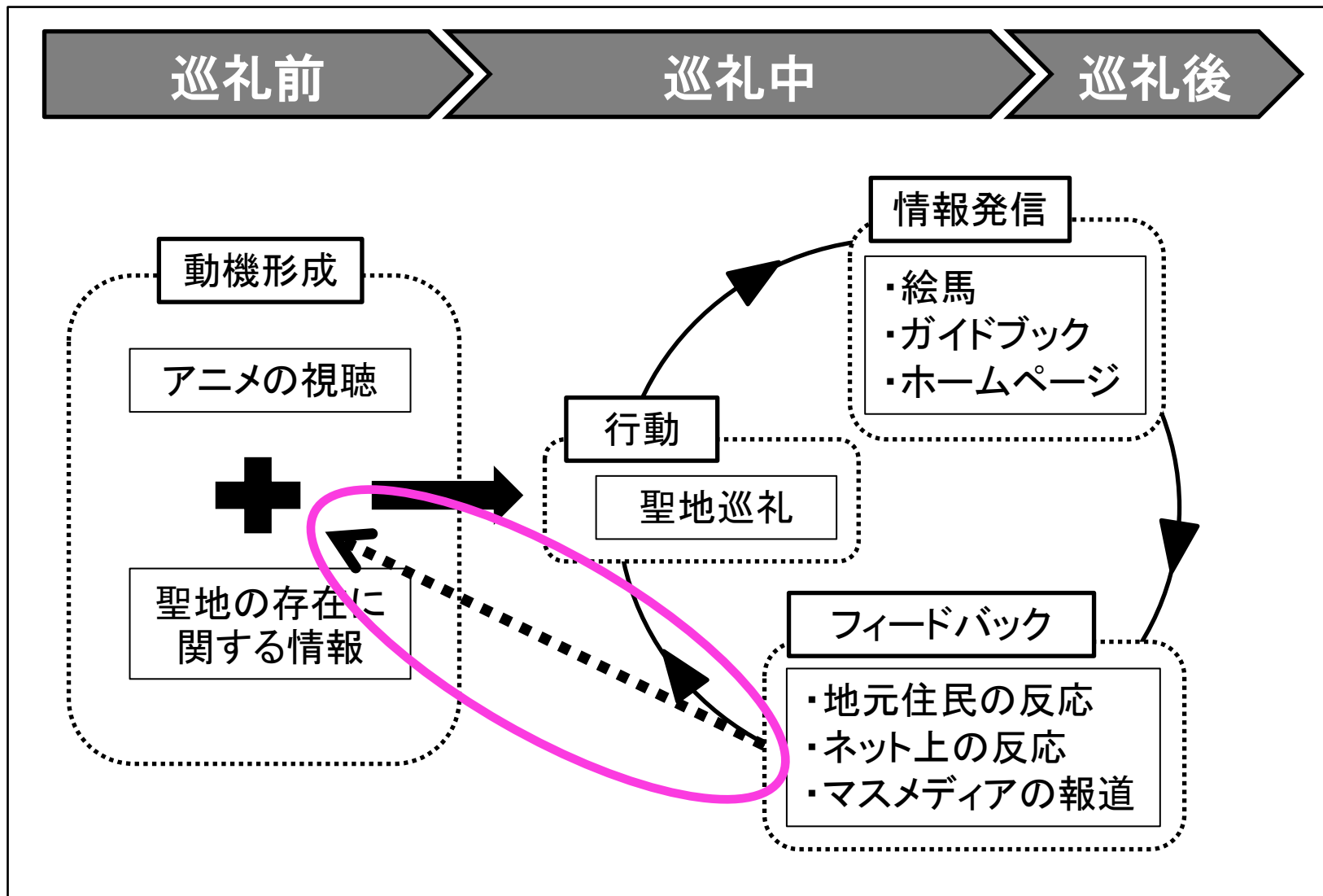
- ・聖地巡礼ガイドブックや、地域のことを紹介した同人誌が発行されることが多い。
- ・鷲宮町その他、大町市、七ヶ浜町、
三次町、豊郷町

などで確認

各種同人誌



アニメ聖地巡礼行動の特徴

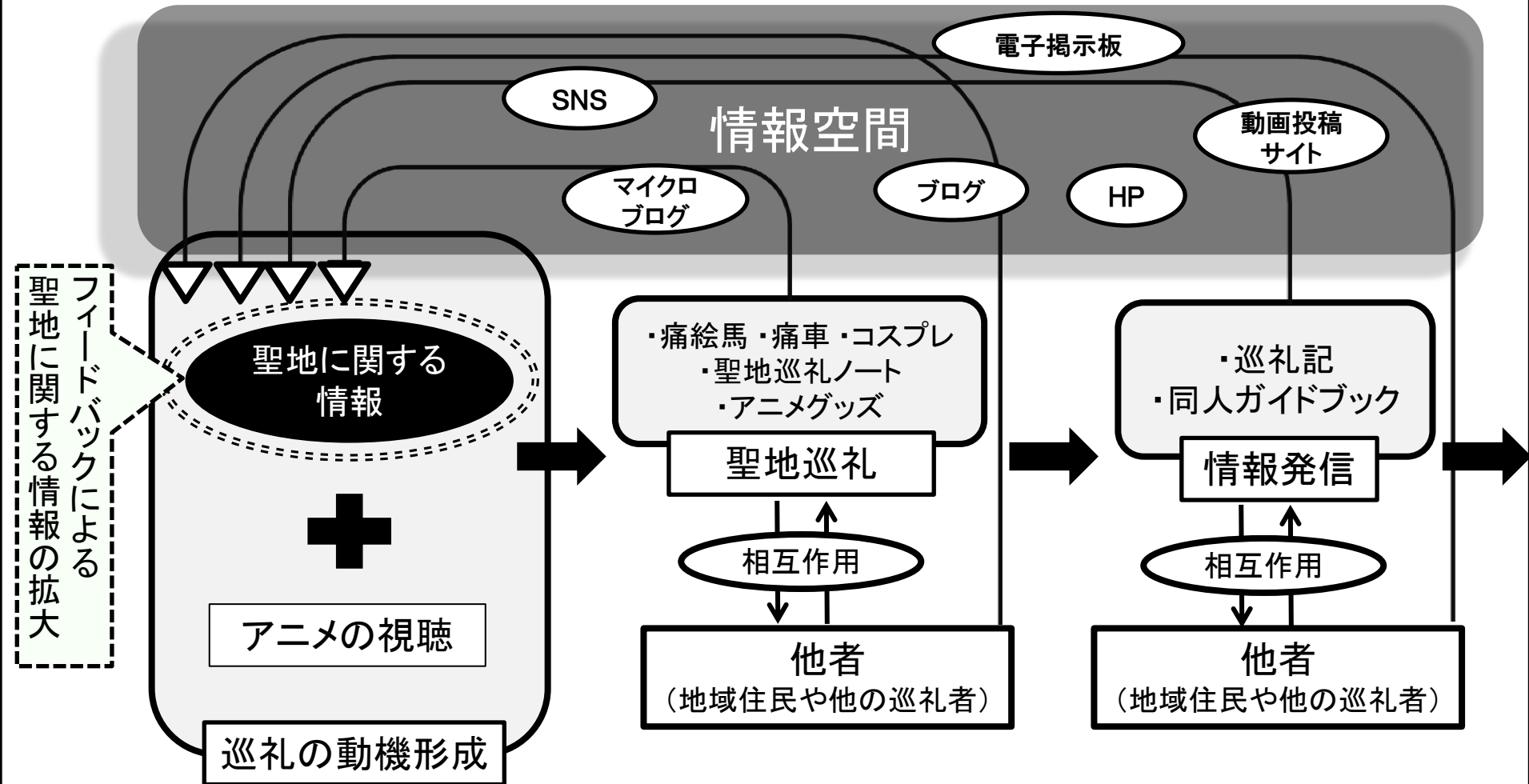


アニメ聖地巡礼行動の見取り図

巡礼前

巡礼中

巡礼後



② アニメ聖地巡礼

観光研究の道、そして、コンテンツツーリズム研究

研究活動から得られること

中には、こうした流れを「けしからん！」という人も...

しかし、現在の情報環境を考えると

「価値観の異なる人々」が観光によって**「出会う」**現象が、

今後様々な場で起こって来ると考えられる。

これからの日本を背負って立つ人材を育てる学校教育においても、

こうした一見**「異質」**な価値観とどう付き合うのか、

ということを指導に盛り込む必要がある。

フラットな立場に立ち、実際にコミュニケーションすることで、

相手を理解する。

③ 北海道大学ピア・サポート ひよんなことからピア・サポート学生代表に



③ 北海道大学ピア・サポート

ひよんなことからピア・サポート学生代表に

日本学生相談学会50周年記念誌編集委員会
(2010)『学生相談ハンドブック』学苑社

1. 背景

2. 組織

3. 活動の概要

4. 活動報告

4-1. 「ぴあのわ」参加による他大との交流

4-2. 相談業務の実際

4-3. 交流創出イベント「本活」

4-4. 質問紙調査結果から考える学生の悩み

5. 最新の動向

ピア・サポートに関する
学術文献などが
載っています。

1 背景

- 大学生生活には数多くの**悩み**がある。

学生生活

学問・研究

就職・進路

etc.

- 悩みがあることそれ自体は問題ではない、
- 従来であれば様々な人に相談するなどして、
悩みを解決してきた。
- しかし、**個人化**が進んだことでふとした時に相談できる相手がいなかった場合が出てきている。
- 一方で、学内では、**学生支援のための組織やシステム、人材**といった資源がすでにある。
- 学生とそうした組織をつなぐ**役割**を担う組織が必要

2 組織

★北海道大学ピア・サポートは、
教務学生支援課管轄の学生相談室関連組織。

★教員4名によるサポート

2名(工学部・歯学部教授)は運営面。

2名(教育学部・准教授)は学生のサポート面。

★事務の万全の協力体制

3 活動の概要

☆ピア・サポーターが、学生からの相談を受け、その解決をはかる、あるいは、解決が可能な組織を紹介することが主たる業務

☆ピア・サポーターの構成

- 学部生：7人（男性3人、女性4人）
- 大学院生：6人（男性3人、女性3人）

☆2009年11月に試行、
2010年4月より本格稼働

☆ボランティア相談室を
間借りしていたが、2010年10月より専用の部屋に移転



ピア・サポート室の様子

『学生同士のピア・サポート』北海道大学高等教育機能開発総合センター Newsletter No.82 pp.4-5
<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/cnews/82.pdf>

4. ピア・サポート活動の報告 他大学との交流・意見交換-1

「ぴあのわ」に参加

1. ピアサポーターの情報交換の場(名古屋工業大学中心)
2. 今回(2011年1月9日)で4回目
3. 第4回の参加大学
名古屋工業大学、名古屋大学、
三重大学、日本福祉大学、
北海道大学、追手門学院大学、島根大学
4. それぞれのピアサポーターが現状や
今後の課題、相談事例などを発表。



「ぴあのわ」の様子



集合写真



「ぴあのわ」の様子

「ぴあのわ」で学んだこと

1. 広報の重要性

ピアサポートシステムの周知が必要

2. 組織としての役割の明確化

ピアサポートは誰のために何をするのかを
関係者および利用者が位置づけることの重要性

3. 成員の維持

サポーターのモチベーションの維持および、
人材の確保の工夫の必要性

4. ピア・サポート活動の報告

・効果的な**広報**のためには、**組織の位置付け**の明確化が必要。
 ・**組織の位置付け**が明確化していれば、的確な**広報**が可能に。

広報

・**広報**によって相談者が増えたり、相談員が増えることで、成員の**モチベーション**および**人材**の維持につながる。
 ・成員の**モチベーション**が高く、**人材**も良ければ、そのこと自体が口コミで伝わり、**広報**になっていく。

組織の位置付け

成員の維持

・モチベーション
 ・人材

・**組織の位置付け**が明確化すると、成員は「誰のために何をしているのか」という自分の位置付けを理解することになり、**モチベーション**が高まる。
 ・成員それぞれが、モチベーションを高く保ち、活動を活発に持続することにより、自身の持つ**組織の位置付け**も明確化される。

出典：岡本健(2011)「北海道大学ピア・サポートの誕生と展開 —つながり創出型ピア・サポートの提案」『北海道大学ピア・サポート活動報告書(平成22年度版)』pp.5-25.の図を加筆修正

4. ピア・サポート活動の報告

相談人数(単位:人)

	相談者数	来室者数
2010年4月	15	/
2010年5月	4	
2010年6月	3	
2010年7月	1	
2010年8月	0	
2010年9月	0	
2010年10月	0	
2010年11月	5	
2010年12月	4	110

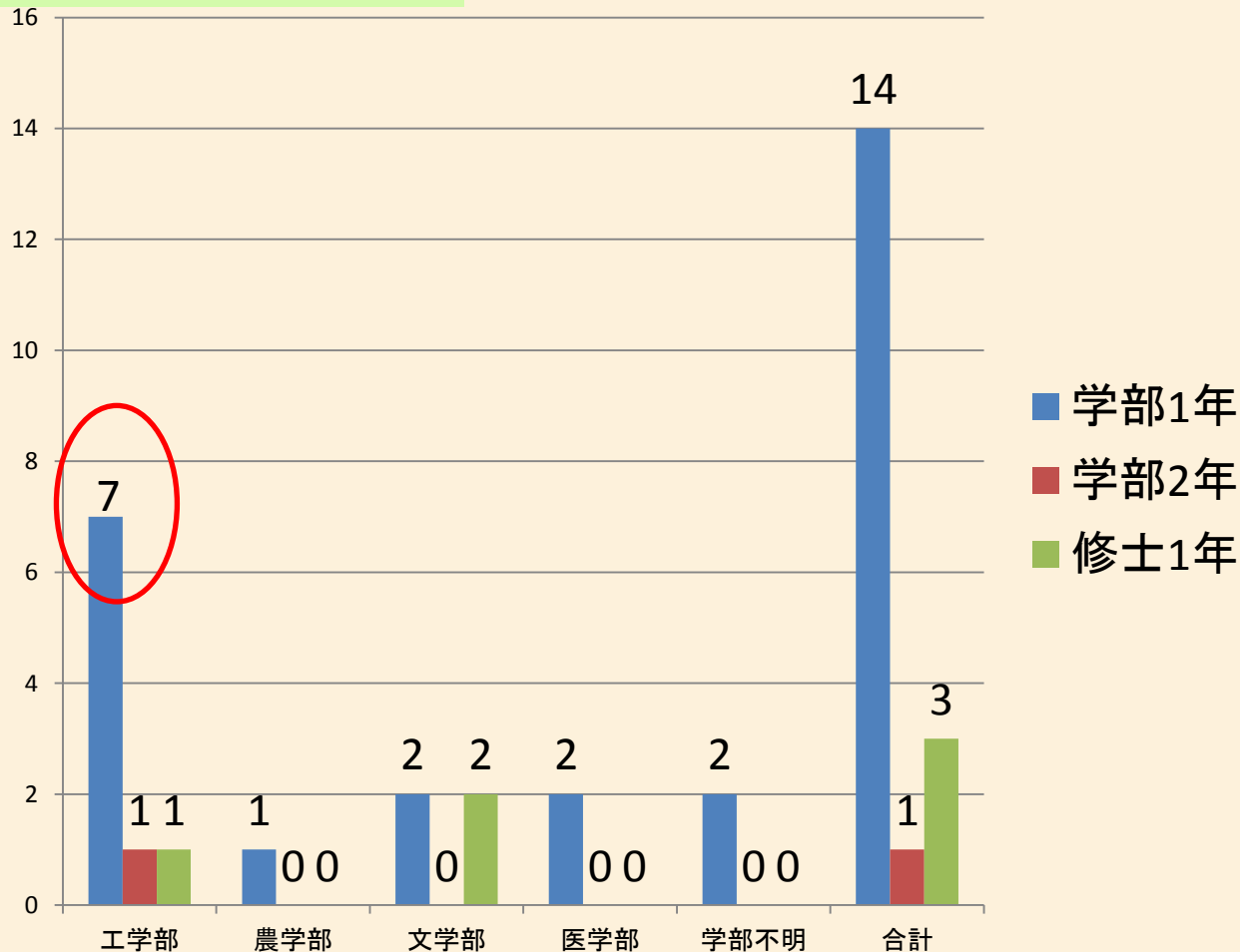
他大でも課題とされている利用者減によるメンバーのモチベーション低下が問題

本当に悩みが少ないのであればこんなに素晴らしいことは無いが、実際はそうではないようだ....。

4. ピア・サポート活動の報告

相談業務の実際-2

相談者の学部と学年(単位:人)



工学部、農学部、文学部、医学部、特に工学部が多い(全体的に学生数が多いからか?)

学部1年(青)、修士1年(緑)など、新入年度がほとんど

4. ピア・サポート活動の報告

相談者の滞在時間

相談内容と相談数(単位:人)

相談内容	相談数
道案内	6
履修	5
アルバイト	3
授業	2
ボランティア	2
サークル	3
対人関係	2
奨学金相談	1
資格試験	1
学生生活全般	2
その他	4

	min
最小値	1
最大値	90
平均値	19.9
標準偏差	24.2

n = 19

相談内容は多様。
また、じっくりと話しているうちに
様々な悩みの掘り起しができる場合も。

つまり、来室していないが、
悩みを抱えていたり、
悩みの種はあるが、無意識にしまっ
ている可能性も。

4. ピア・サポート活動の報告

交流創出イベント「本活」を実施

企画の背景

- ♪ピア・サポートの広報として（組織と場所の周知）
- ♪ピア・サポーターの実地訓練の場として
（サポーターのコミュニケーション能力の向上）
- ♪学生のサポートニーズに関するデータ収集として
（聞き取りおよびアンケート調査）

実施概要

- ♪いらなくなった本を回収し、これから使う学生に受け渡す
- ♪本の回収時には、文房具等と交換
- ♪本の頒布は無料、ただし、アンケート記入を必須

～本活～

いらなくなった本や教科書、参考書
があれば、是非お持ちよりください。

(マンガ・雑誌等、一部引き取りができないものもありますが、ご了承ください。)

協力してくださった方には、冊数・金額に応じて
もれなく粗品をプレゼントいたします。

★粗品例★

1冊以上…ペン、クリアファイル

10冊以上…USBメモリー などなど

回収場所：ボランティア室（高等教育機能開発総合センター N109）

回収日：3月16日～30日の(火)と(木) 14時～16時30分

4月 5日(月)～9日(金)

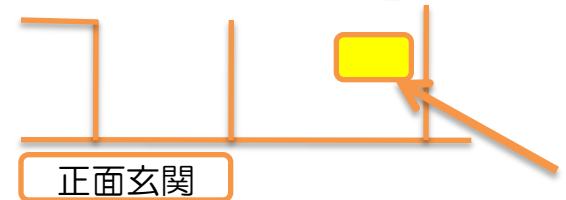
月・水・金11時～15時、火・木11時～17時

※「ピアサポート」とは…

学生の、学生による、学生のためのサポート活動です。

学生生活の悩み、疑問を一緒に解決します。

《予告》今回回収した本は、4月12日～16日にボランティア室
にて無料で頒布します。探してた本が見つかるかも！！



正面玄関

ボランティア室

ピアサポート学生委員会

© OKAMOTO Takeshi 連絡先：011-706-7454（高機能センター学生支援課）

honkatsu@gmail.com（ピアサポート学生委員会「本活」担当）

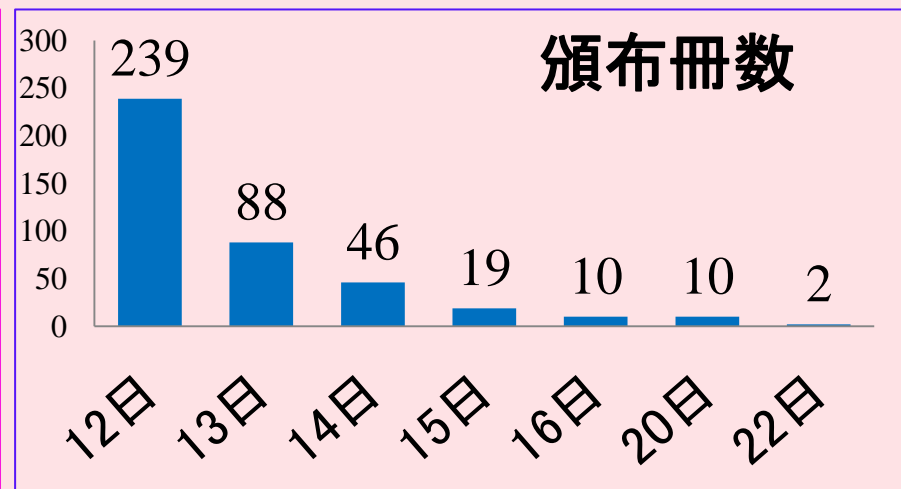
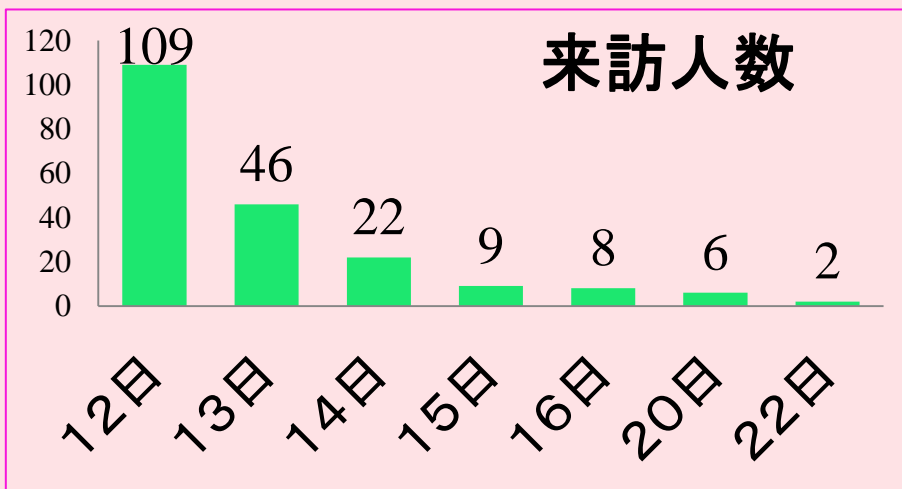
結果

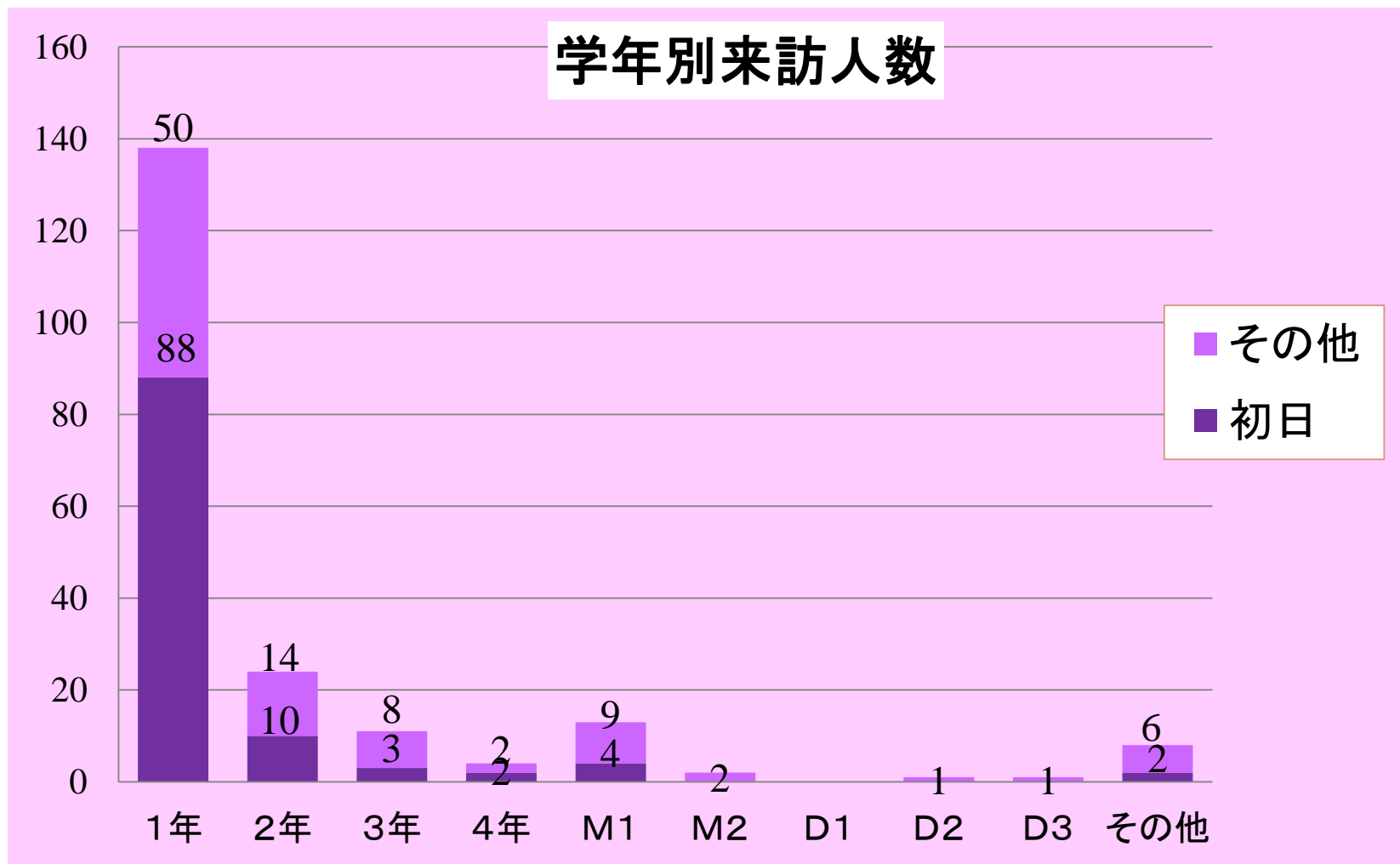
■ 2月、3月、4月に本を回収

•→計492冊の書籍を回収

■ 4月中旬一週間が頒布期間

•→約400人が来訪。202人に414冊の書籍を頒布





本活の様子-1





■ 2月、3月、4月に本を回収

•→計492冊の書籍を回収

■ 4月中旬一週間が頒布期間

•→約400人が来訪。202人に414冊の書籍を頒布



ピア・サポートメンバーの声

- ・予想を上回る来場者数
- ・本を通してコミュニケーションが促進される
- ・立ち話であっても、軽い相談を解決することができた
- ・ピア・サポートの周知
- ・ピア・サポーターのモチベーションアップ

何をきっかけに本活を知りましたか？

紙媒体	128	クラオリパック	24
		ポスター	25
		不明	79
人づて	56		
たまたま通りかかった	12		
不明・その他	11		

本を選んだ理由はなんですか？

- ・授業で必要な教科書だから
- ・今後、専門分野の参考になりそうだから
- ・語学・資格の勉強のために
- ・趣味（小説の内容に興味があったから 等）

教科書のニーズが高い。

学習や趣味、資格などの自分の成長に資する動機。

4. ピア・サポート活動の報告

「学生生活で力を注ぎたいこと」

学習面	127	62.9%
課外活動(部活・サークル)	62	30.7%
アルバイト	16	7.9%
読書	7	3.5%
生活	5	2.5%
資格取得	3	1.5%
その他	46	22.8%
無記入	13	6.4%

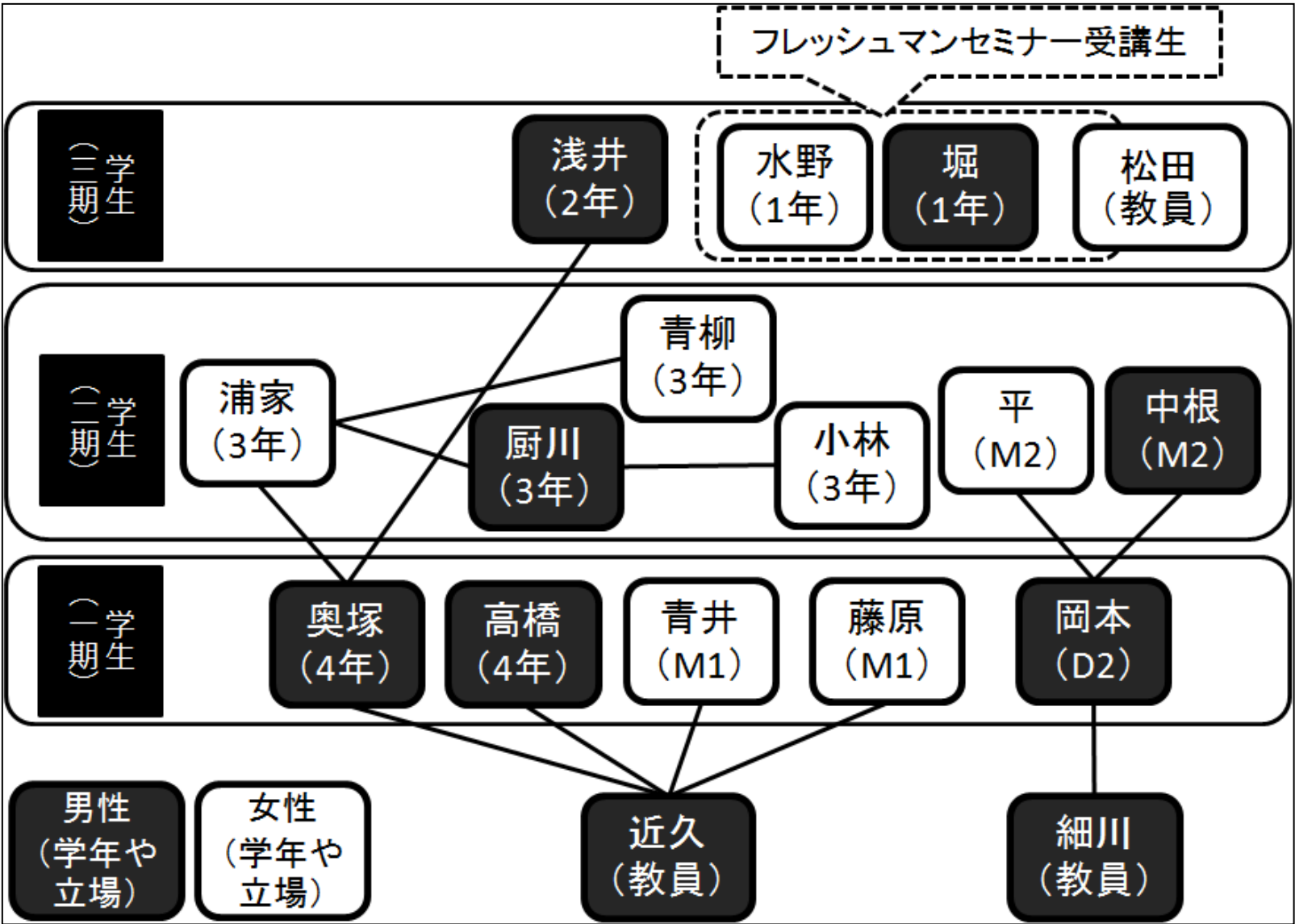
「学生生活で不安なこと」

勉強	58	28.7%
生活全般	32	15.8%
金銭	17	8.4%
進路	15	7.4%
大学生活	14	6.9%
人間関係	12	5.9%
その他・不明	27	13.4%
ない	20	9.9%
無記入	22	10.9%

学習面に関して、力を注ぎたいが不安、という現状が見えた。

不安なことが無いという人は1割程度しかいない。

4. ピア・サポート活動の報告



4. ピア・サポート活動の報告

新ピア・サポート室



外から見たところ

4. ピア・サポート活動の報告

新ピア・サポート室



オープンスペースへース全景



個別相談室

4. ピア・サポート活動の報告

新ピア・サポート室



ピア・サポート事務局

5. 最新の動向

相談人数(単位:人)

	相談者数	来室者数
2010年4月	15	/
2010年5月	4	
2010年6月	3	
2010年7月	1	
2010年8月	0	
2010年9月	0	
2010年10月	0	
2010年11月	5	
2010年12月	4	110

他大でも課題とされている利用者減によるメンバーのモチベーション低下が問題

本当に悩みが少ないのであればこんなに素晴らしいことは無いが、実際はそうではないようだ....。

5. 最新の動向

2011年4月度 入室者数および相談者数

4月毎日開室期間の入室者数

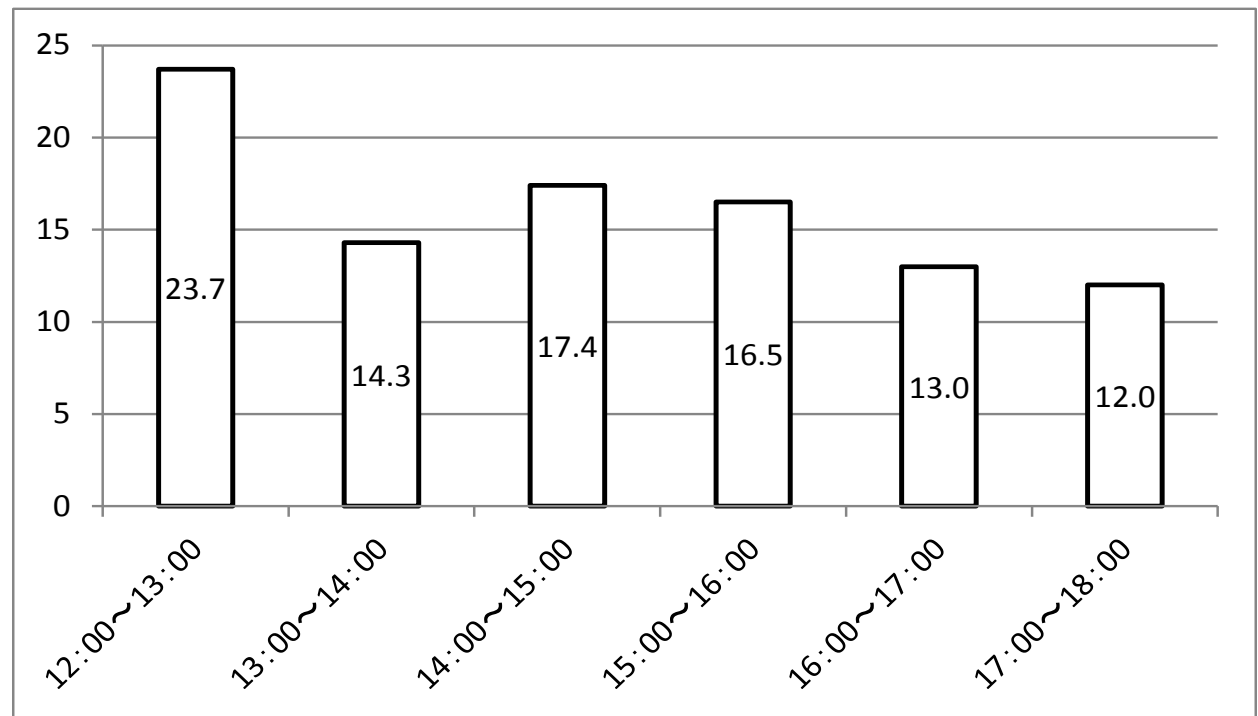
年月日	曜日	時間帯						合計	平均
		12:00~13:00	13:00~14:00	14:00~15:00	15:00~16:00	16:00~17:00	17:00~18:00		
2011年4月11日	月	29	22	22	29	16	10	128	21.3
2011年4月12日	火	20	12	16	16	12	16	92	15.3
2011年4月13日	水	20	16	29	18	13	18	114	19.0
2011年4月14日	木	42	13	29	20	14	8	126	21.0
2011年4月15日	金	12	18	7	19	21	18	95	15.8
2011年4月18日	月	39	11	19	20	12	6	107	17.8
2011年4月19日	火	21	13	11	5	9	10	69	11.5
2011年4月20日	水	12	12	12	12	8	14	70	11.7
2011年4月21日	木	21	10	17	17	7	6	78	13.0
2011年4月22日	金	21	16	12	9	18	14	90	15.0
合計		237	143	174	165	130	120	969	161.5
平均		23.7	14.3	17.4	16.5	13	12		

5. 最新の動向

2011年4月度 来室者数および相談者数

入室者数平均値の時間帯ごと比較

図を見ると、12時から13時の間の平均入室者数が23.7人と、他の時間帯に比べて多いことがわかります。12時は昼休みの時間に当たっており、授業と授業の合間に相談のために入室したり、昼食の場として利用したりすることが原因であると考えられます。



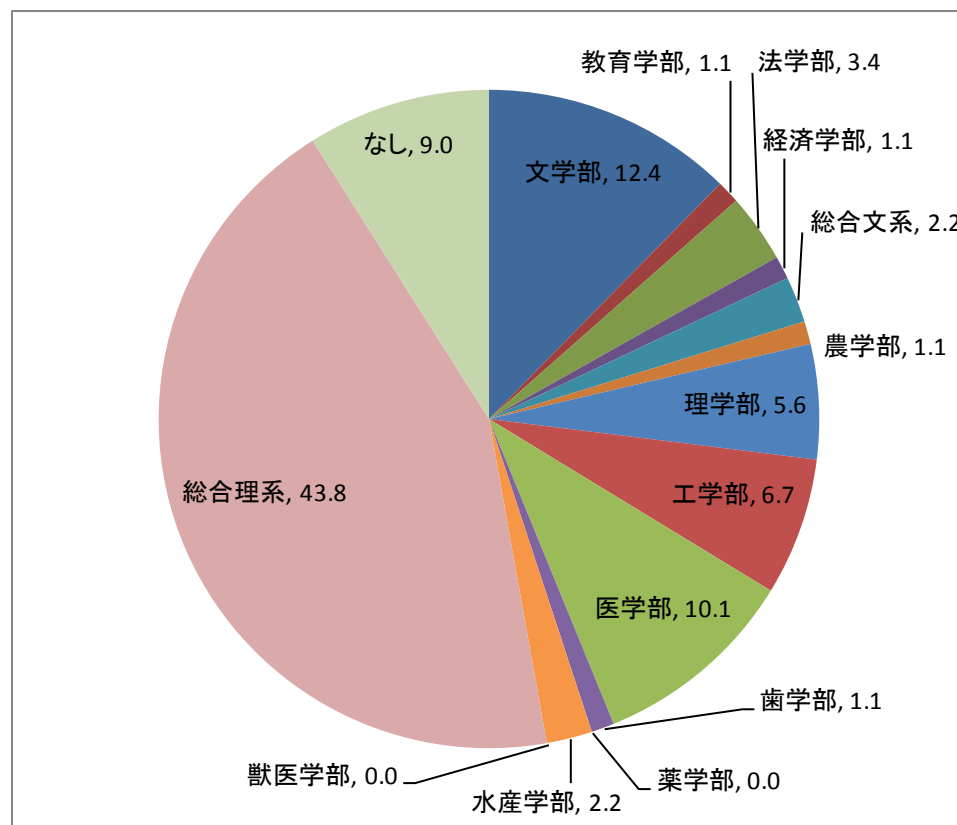
5. 最新の動向

2011年4月度 質問紙調査結果

ピア・サポート室にて、
2011年4月14日から4月27日までの開室日にアンケート調査を実施

所属学部

所属学部	人数	割合
文学部	11	12.4
教育学部	1	1.1
法学部	3	3.4
経済学部	1	1.1
総合文系	2	2.2
農学部	1	1.1
理学部	5	5.6
工学部	6	6.7
医学部	9	10.1
歯学部	1	1.1
薬学部	0	0.0
水産学部	2	2.2
獣医学部	0	0.0
総合理系	39	43.8
なし	8	9.0
合計	89	100.0



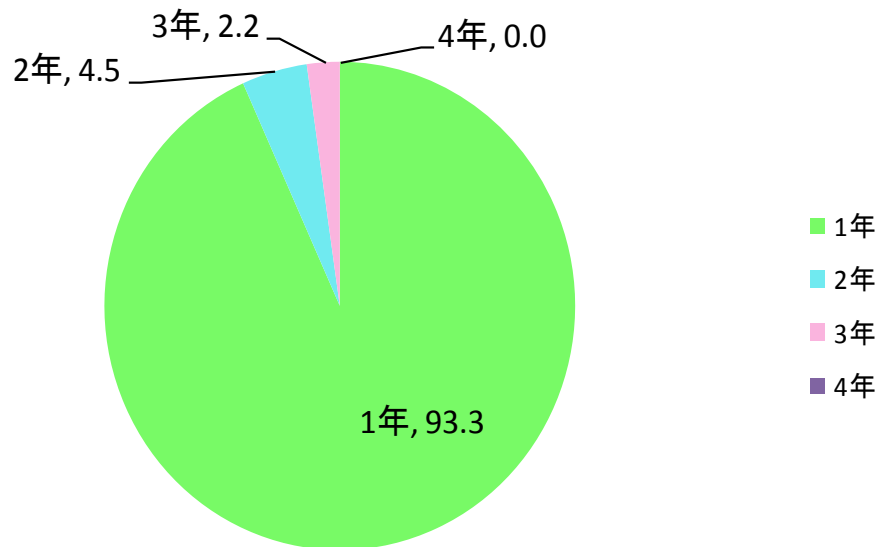
5. 最新の動向

2011年4月度 質問紙調査結果

ピア・サポート室にて、
2011年4月14日から4月27日までの開室日にアンケート調査を実施

学年

学年	人数	割合
1年	83	93.3
2年	4	4.5
3年	2	2.2
4年	0	0.0
合計	89	100.0



性別

性別	人数	割合
男性	42	47.2
女性	47	52.8
合計	89	100.0

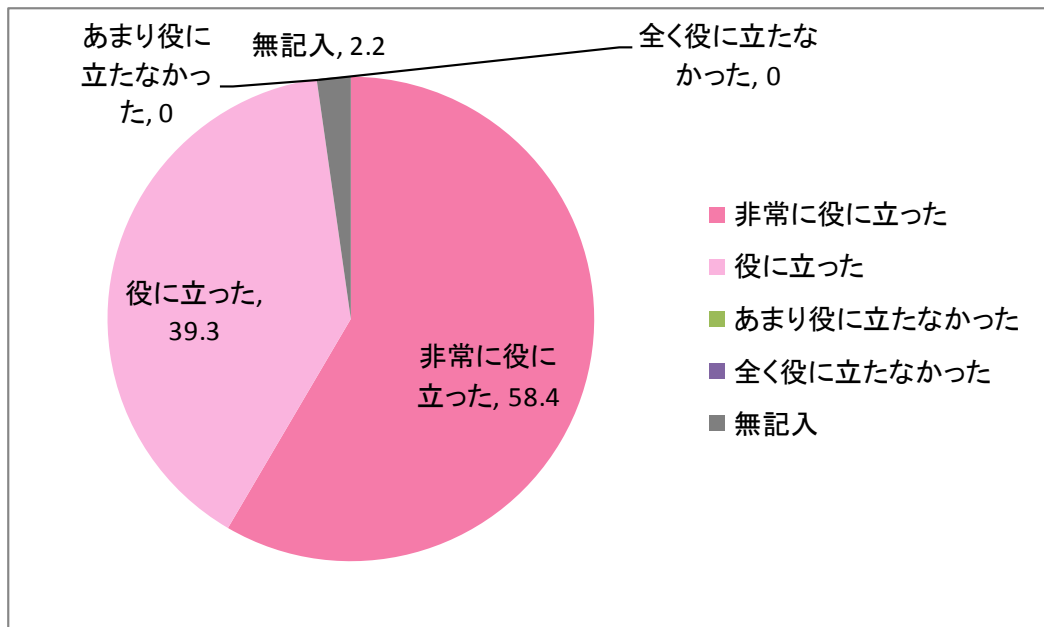
5. 最新の動向

2011年4月度 質問紙調査結果

ピア・サポート室にて、
2011年4月14日から4月27日までの開室日にアンケート調査を実施

満足度

満足度	非常に役に立った	役に立った	あまり役に立たなかった	全く役に立たなかった	無記入
回答数	52	35	0	0	2
割合	58.4	39.3	0	0	2.2



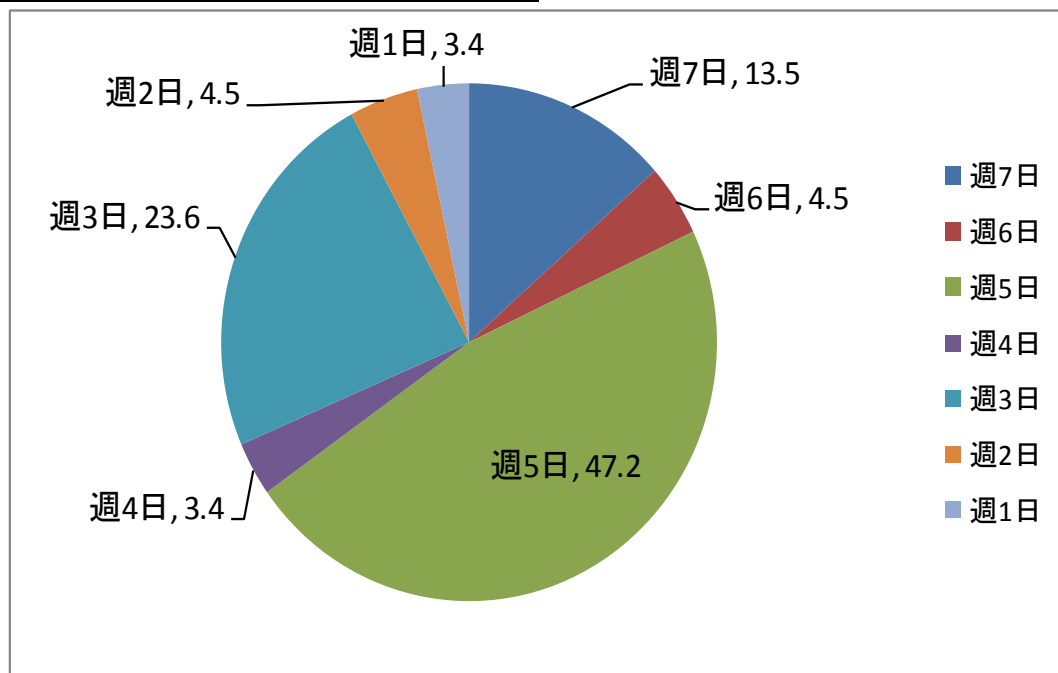
5. 最新の動向

2011年4月度 質問紙調査結果

ピア・サポート室にて、
2011年4月14日から4月27日までの開室日にアンケート調査を実施

希望開室頻度

開室希望頻度(日)	週7日	週6日	週5日	週4日	週3日	週2日	週1日	合計
回答数	12	4	42	3	21	4	3	89
割合	13.5	4.5	47.2	3.4	23.6	4.5	3.4	100.0



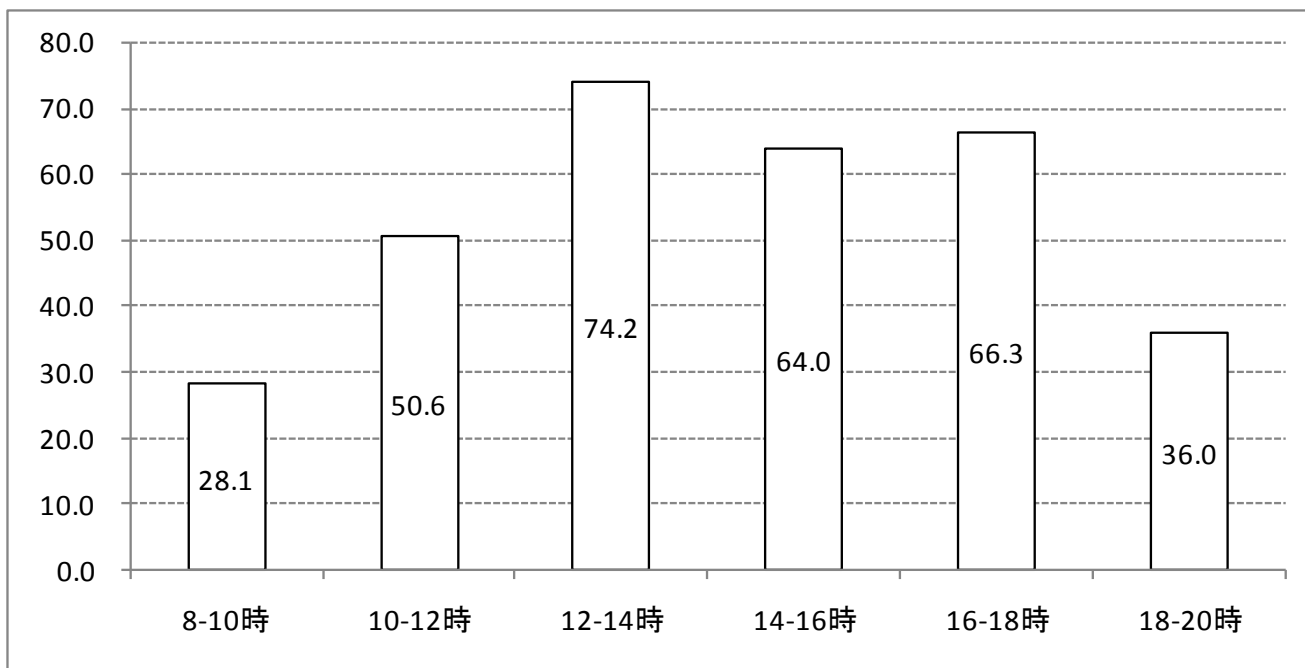
5. 最新の動向

2011年4月度 質問紙調査結果

ピア・サポート室にて、
2011年4月14日から4月27日までの開室日にアンケート調査を実施

開室希望時間帯

開室希望時間帯								
	8-10時	10-12時	12-14時	14-16時	16-18時	18-20時	合計	
回答数	25	45	66	57	59	32	284	
割合	28.1	50.6	74.2	64.0	66.3	36.0		



4. ピア・サポート活動の報告

運営の考え方

・効果的な**広報**のためには、**組織の位置付け**の明確化が必要。
・**組織の位置付け**が明確化していれば、的確な**広報**が可能に。

広報

・**広報**によって相談者が増えたり、相談員が増えることで、成員の**モチベーション**および**人材**の維持につながる。
・成員の**モチベーション**が高く、**人材**も良ければ、そのこと自体が口コミで伝わり、**広報**になっていく。

組織の位置付け

成員の維持

・モチベーション
・人材

・**組織の位置付け**が明確化すると、成員は「誰のために何をしているのか」という自分の位置付けを理解することになり、**モチベーション**が高まる。
・成員それぞれが、モチベーションを高く保ち、活動を活発に持続することにより、自身の持つ**組織の位置付け**も明確化される。

今後の展開

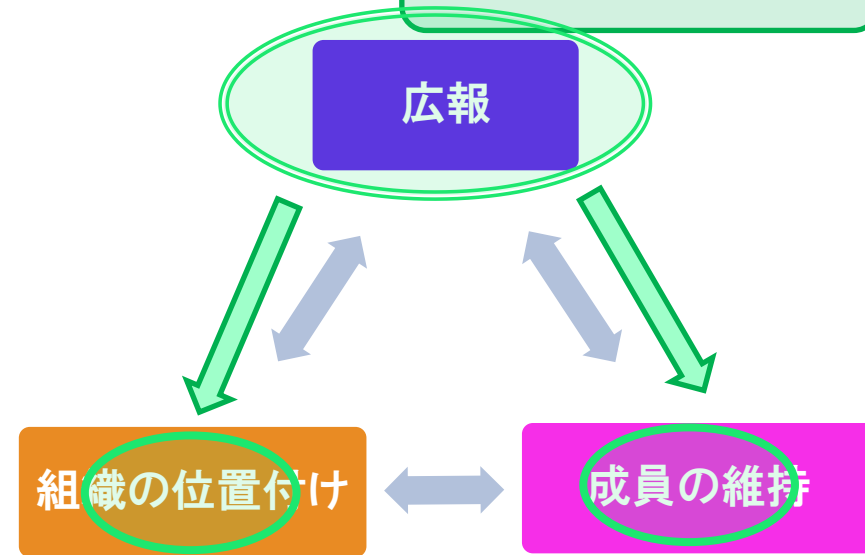
① 広報ビデオ制作

ピア・サポートのマーケティングをメンバーで考え、映像を制作。

② ピア・サポート・カフェ(新ピア室)

相談の敷居を下げるために、学生同士の交流の場をデザイン。

4. ピア・サポート活動の報告



1. ピア・サポートの効果的な周知の必要性

2. チラシやビラ？

3. これらは宣伝媒体であって、
情報を提供するものでしかない。

4. また、一人の力でできてしまい、
メンバーが組織の位置づけを考える機会にはならない。

5. 情報を与えるだけでは無く、
それ自体を見ることで面白さが得られる「コンテンツ」を作る。

6. 多くの人が関わることのできる映像メディアに取り組む。

4. ピア・サポート活動の報告

1. ピア・サポートの学生の高齢化

2. シフトが週2回から3回へ

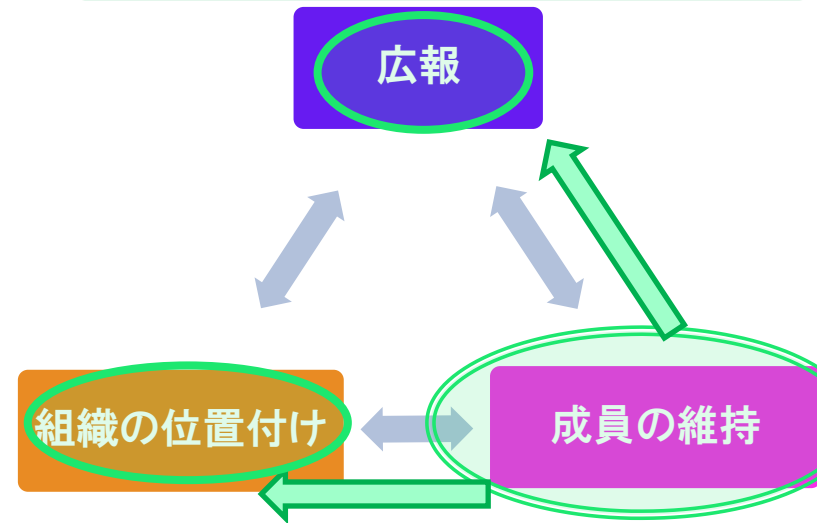
3. 学生の趣向なども極めて移り変わりが早い

4. たとえば、1976年生まれ、1986年生まれ、1996年生まれでは、ICT(情報通信機器)の使い方が違う。
ネオ・デジタルネイティブ

5. 様々な世代で多様な人々が組織にいるべき

6. 新メンバーにどうやって入ってもらうか。

新メンバーの加入-1



橋元良明・奥律哉・長尾嘉英・庄野徹
(2010)「ネオ・デジタルティブの誕生」
ダイヤモンド社

4. ピア・サポート活動の報告

新メンバーの加入-2

☆友人関係ばかりでは、同質化を生む・・・

☆完全に公募をすると、アルバイト感覚で来られる・・・

☆頼み込んで来てもらおうと、主体性が弱い可能性がある・・・

担当教員が授業で呼びかけ

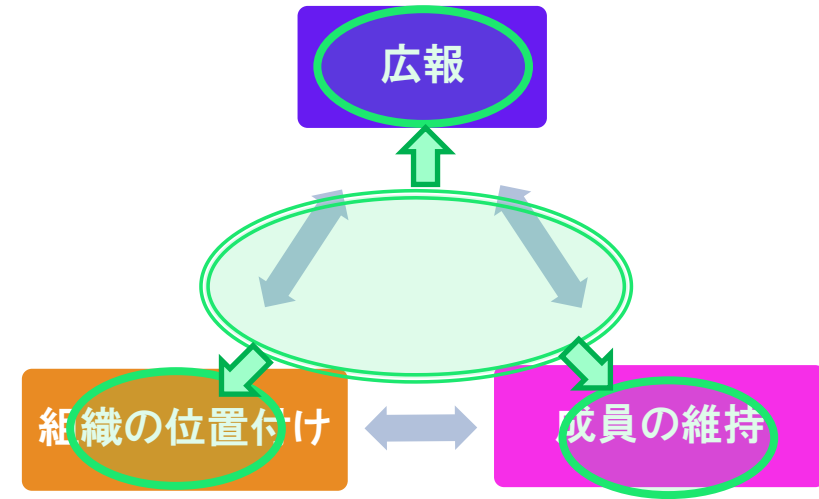
上のことに気を付けた上での勧誘

フリースペースのヘビーユーザーへの勧誘

広報

組織の位置付け

成員の維持



⑤ピア・サポート活動の今後

1. 新ピア室を活かす

2. オープンスペース的活用？

3. それは他の場所や学食でも代替可能

4. 一人でゆっくりできる場所があまり無い

5. 相談者の垣根を減らせるような緩衝地帯が必要

6. メンバーにも緊張感を(モチベーション)

7. 他組織とのコラボレーション企画

8. プラットフォームを作ってはどうか

コーヒーやお茶が飲める
ピア・カフェ

5. 最新の動向

1. ピア・カフェ企画を推進中

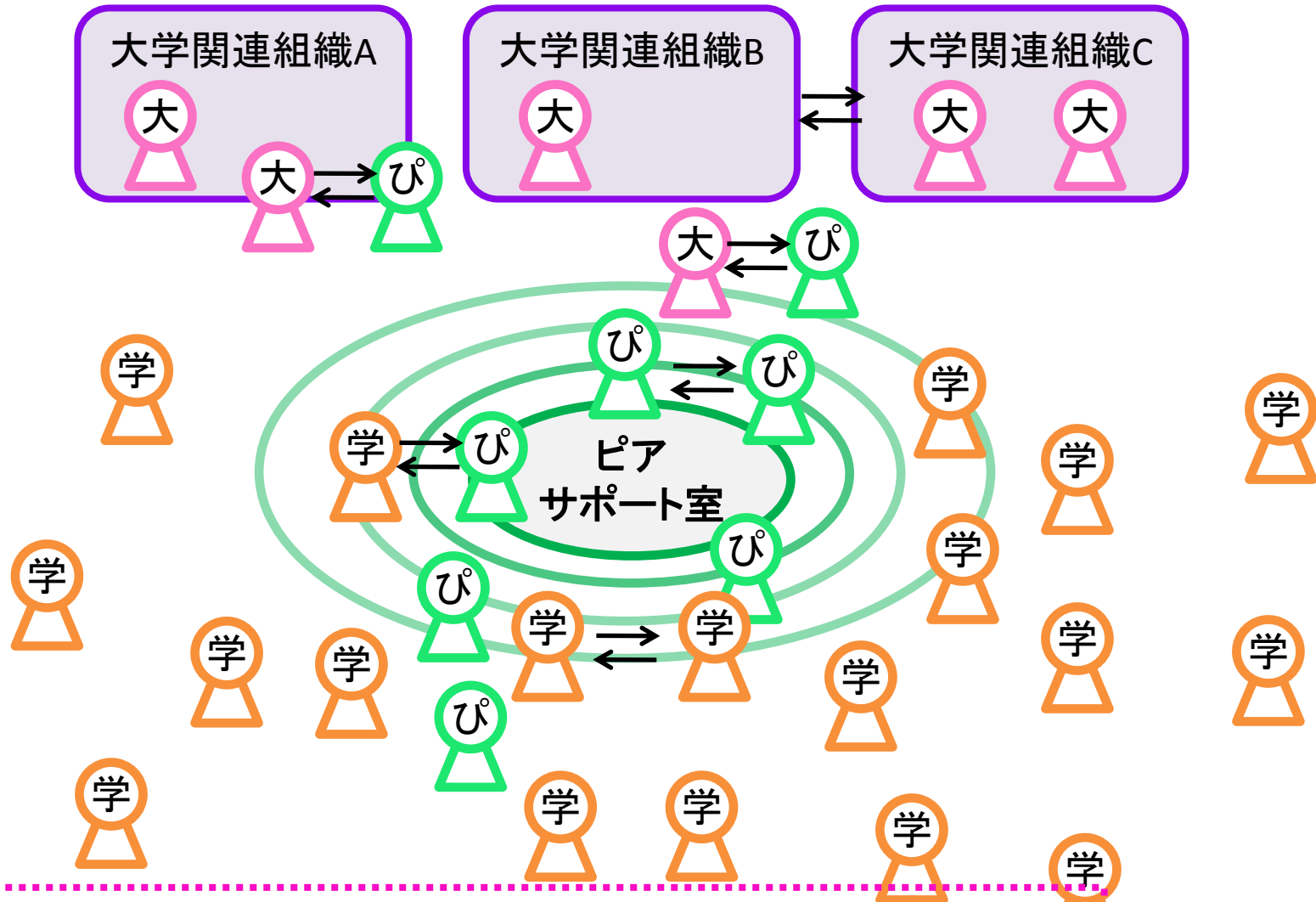
2. 図書館との協力

3. 留学生サポートデスクとの協力

4. キャリア教育支援室との協力

つながりを創っていくピア・サポート

出典：岡本健(2011)「北海道大学ピア・サポートの誕生と展開—つながり創成型ピア・サポートの提案」『北海道大学ピア・サポート活動報告書(平成22年度版)』pp.5-25.



様々な**つながり**を作り、数多くの**相互作用**を生み出していく

豊かな**社会関係資本**、**人間関係の構築**推進

ピア・サポートから学べること

- 自分たちが誰のために、何をやっているのか
を明確化させる
- 活動自体が「楽しい」と思えるような取り組みをする
- 自分たちが目立ったり、楽しむだけではなく、
人のためになる「プラットフォームを構築すること」
の楽しさを知らせる。

ピア・サポート活動は「一人の社会人」として
生きるための基礎を学ぶ機会

④ 本日のまとめ

つながりをつむぐ場をつくる(デザインする)方法

- ★ 多様な価値観を認められる人材を育てる必要がある。
- ★ 異質な他者との関わり方として、「同質になる」、のではなく、「違って
いる」ことは認めた上で、どう付き合うかを考えさせる。
- ★ 外部からのまなざしによって自分への認知が促進される。
- ★ 感情論だけではなく、客観的なデータ(数とは限らない。)を
活用したり、論理的に話をしたり、書いたりすることを重視する。
- ★ そして、一つ上のメタな視点に立って、
活動全体をマネジメントしていく主体が必要である。

ご清聴ありがとうございました

